



主張

どこまでも遠くへ！ みんなで行こう！

牛越 雅紀

○グローバル化や情報化、少子高齢化等、社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が急務となっており：

○異常気象や大規模災害、各地で起こる環境問題。戦争や紛争等の国際問題。AI技術の急速な進化等々：世界はまさに「予測不能な未来」「VUCAの時代」：

○学校を取り巻く環境も複雑化・多様化しており、いじめ・不登校等生徒指導上の諸課題への対応、特別支援教育の充実、ICT機器の有効活用等への対応、更には教職員不足、働き方改革等々：

これらの言葉が、いろいろなところで当たり前のように聞かれ、教師としての有り様が問われています。それはそのとおりなのだけれど、私などは食傷気味…。これから私たちが向かっている未来は、そんなに心配だらけの不安な世の中なのでしょうか。もちろん心配もあるけれど、未来の話をするときには、できるだけ明るく楽しいことを考えませんか。少しお気楽過ぎる！と感じられるかもしれませんね。ですが、とかく大人は心配なことばかりを話がちです。「世の中そんなに捨てたものじゃないよ。友達は素晴らしいよ。力を合わせて乗り越えていく経験は大事だよ」と、伝えることも、学校の大事な使命、もつと言えば「校長の仕事」だと私は思っています。



とは言え、無策では何も解決しません。目の前にある様々な課題に対応するために、教師一人の努力のみに頼るのではなく、仲間・同僚と協力し合い、チームで対応する力、更には地域や社会の多様な組織等と連携・協働できる力がより必要となっています。そう考えた時、私はアフリカの諺「早く行きたいなら一人で行け、遠くへ行きたいならみんなで行け」を思い出します。このことは、自校でもよく話題にしています。諸課題を一人で解決することができれば、それはそれで素晴らしいことですが、その教師がいなければ何とできない、誰も解決できないようでは困ります。みんなを取り組むことでその英知と経験を結集し、よりよい方向を導き出していくことができるのだと信じます。

もう一つ。近江商人には、『三方よし…売り手によし、買い手によし、世間によし。すなわち、三方よし』という商いの精神がある、という話です。このことを初めて聞いたとき、すつと胸に落ちて納得したことを思い出します。学校の連携・協働について考えるときも、「生徒によし、教師によし、そして保護者・地域・社会にもよし」であると素敵ですし、常にそうありたいものです。これは win-win の関係、ウェルビーイングにもつながるものだと思います。そんな学校が実現できるよう、目指す姿を共有し、それぞれの思いを束ねて前に進んでいく。その舵取りを任されているのが校長だと思えます。

子供たちがこれからの人生を夢と希望と勇気をもって、たくましく堂々と生きていくことができるよう、互いに助け合い、信頼関係を築き、連携・協働を力強く進め、みんなが歩み続けましょう。そのために校長ができること、なすべきことは何なのかを探し求めながら。

(全日中副会長・長野県諏訪市立上諏訪中学校長)